● がんゲノム医療について

ゲノムとは、体をつくるためのいわば設計図のようなもので、ひとりひとり違っています。がんゲノム医療とは、主にがんの組織を用いて、多数の遺伝子を同時に調べる「がん遺伝子パネル検査」を行い、個人の遺伝子の変化や生まれ持った遺伝子の違い（遺伝子変異）を解析し、がんの性質を明らかにすることや、ひとりひとりの体質や病状に合わせて治療を行う医療です。

これまでも一部のがんの治療では、すでに標準治療として、がんの組織などを用いて１つまたはいくつかの遺伝子を調べる「がん遺伝子検査」を行い、遺伝子の変化に対応した薬を使用する治療が行われてきましたが、これはがんゲノム医療に含まれません。
多数の遺伝子を同時に調べる「がん遺伝子パネル検査」は、標準治療がないまたは終了したなどの条件を満たす場合に、がんゲノム医療として、一部が保険診療で行われます。

全国どこでもがんゲノム医療を受けられる体制を構築するため、国はがんゲノム医療中核拠点病院及びがんゲノム医療拠点病院を指定しています。また、これらの病院と連携して治療を行う病院としてがんゲノム医療連携病院を指定しています。

当院では、「がん遺伝子パネル検査」を必要とする患者さんには、主に県内の指定病院に紹介し検査を依頼して、その検査結果に基づいて当院でがんゲノム医療を行います。

がんゲノム医療拠点病院：奈良県立医科大学附属病院
がんゲノム医療連携病院：奈良県総合医療センター、天理よろず相談所病院、
近畿大学奈良病院、市立奈良病院など